

【 From Kobe 2016年4月 】

春爛漫 新しい出会いと出発へ 日々あらた 元気に今を

満開の花をつけた枝を 精一杯広げる桜に 人それぞれ 思い出がある

神戸の市街地 再度山山裾の高台 水の科学館(奥平野貯水池)

樹齢約70年の大きな一本桜「舞桜」が、今年も満開の花をつけました 2016.4.4.



花の香りが漂う春に胸膨らませ、仲間元気を活力に!!
時には助けてもらいながら わが道を前向いて

3月27日はイースター・復活日

毎年、復活日があるとキリストの受難に思いをはせ、自らをふりかえり、わが身に感謝し、家族・仲間 そして地球の人たちへ思いをはせる

希望の明日して世界平和を春の花に込めて「神とともにいます」との思いもあらた 新しい出発を誓う



2016.3.27.
Mutsu Nakanishi from Kobe



「希望」「愛」「優しさ」
アーモンドの花の香りが漂う春

春の妖精 カタクリの花 2016

花言葉は「初恋」・「耐える」

地球氷河期の生き残り
8年かけて地表に顔を出し
山腹の斜面で冷たい風に身を打ち震わせ
立ち向かう姿に心を揺さぶられる

今年も元気な姿に出会えました

桜の便りが届きだすと毎年会いに行く
佐用たたらの里のカタクリの花

春一番の楽しみ カタクリの花との出会い
その愛らしい姿にじつと目を凝らす



千種川が流れ下る西播磨佐用町 三日月町「弦谷」& 東徳久 殿崎 カタクリの群生地 2016.4.5.

春爛漫 新しい出会いと出発へ 日々 あらた

「老いてはいられない 前向いて 歩を踏み出して」と気を引き締める

2016.4.10. by Mutsu Nakanishi

< ぶつぶつ from Kobe 2016.. 4.1. Mutsu Nakanishi >

1. 神戸の春 海からの毎春の恵み イカナゴ漁と牡蠣の水揚げ
また「イカナゴが夏眠する」すごい生き残りの知恵 知りませんでした
2. わが町 妙法寺「車」集落周辺の谷筋は 幕末期神戸開港を支えた神戸石炭の大生産地
3. この四月 TV ニュース番組の芸能番組化急速に
また おかしかった朝日新聞の紙面構成がおおきくかわってきている

< ぽつぽつ from Kobe より >

1. 神戸の春の海からの毎春の恵み イカナゴ漁と牡蠣の水揚げ また「イカナゴが夏眠する」 すごい生き残りの知恵 知りませんでした



神戸の春 イカナゴ漁と牡蠣の水揚げ

神戸の春の風物詩「イカナゴ」今年はや暖冬がたたって 大阪湾の水温が高く、大阪湾を回遊するイカナゴの稚魚が極端に少なく不漁に。解禁も遅れに遅れて3月7日解禁に。高値を呼んで 毎年 店先のイカナゴを求める行列も 例年ほどにはならず イカナゴの釘煮の話題で盛り上がるの街の輪も、今年是不発に。

それでも 春を感じたく 家内は「くぎ煮」を炊き、こちららは「新子のかまあげ」「くぎ煮」で一杯。うれしい神戸の春の訪れです。

「イカナゴ」とともに この時期 忘れてはならぬ味覚に 西播磨相生・室津の牡蠣がある。 店先には殻付き・剥き身などにして その日水揚げされたたくさんの大粒の牡蠣が店頭に並び並び。

一杯やりながら仲間が「兵庫の春はイカナゴというが、室津や日生海岸の牡蠣を焼いて食べるのが一番」という。

私の高校時代の友人もいつも「日生の牡蠣食べに行こう」といってたなあ・・・と記憶が蘇ってくる。

今年も家内の友達から水揚げすぐの室津殻付き牡蠣を沢山送ってもらって、うれしい焼き牡蠣が食卓にのぼり、舌鼓。

イカナゴのくぎ煮と室津の牡蠣 神戸の春を彩る毎春の恵みです。

ところで、「イカナゴ」のこと。

「イカナゴが海底の砂の中にもぐって夏眠する」って 知っていますか

私は全く知らずで、 そのすごい生き残りの知恵にびっくり。 地球上の動植物みんな すごい知恵で生きている。

「イカナゴは1年の半分近くを寝て過ごす夏眠する修正を持つ珍しい魚いだ」と砂の中から頭を出す写真入りで新聞に掲載されて、初めて この「イカナゴの夏眠」を知りました。

イカナゴは、もともと寒い北の海の魚で、お正月前後が産卵期 卵は明石海峡や紀淡海峡近くの海底の砂つらに産み付け、10日ほどでふ化。

海の流れに乗って大阪湾内に広がり、海中のプランクトンを食べながらぐんぐん大きくなり、2月下旬から3月初めになると、体長3cm程に成長。

それを待って 春の風物詩イカナゴ漁が始まるのだそう。一方、漁を免れ、生き残ったイカナゴは 水温が高くなる6~7月頃になると、イカナゴは体力の消耗を避けるため、海底の砂の中に潜って活動を停止する。これを「夏眠」と呼ぶのだと。イカナゴはそれ以後 餌も食べず、12月まで砂の中でじっとしている。

この習性は、彼らが北の海から南へ分布を広げるために身につけた、暑い夏を 乗り切るすばらしい戦略的生活の知恵。

12月頃になって水温が下がってくると、イカナゴは砂の中から出てきて、産卵をおこない、満1才で親になるという。



海底の砂浜に頭だけ出して 仮眠するイカナゴ

今年は 一説によると今年は大阪湾の海水温が高いために、大阪湾に入る イカナゴが極端に少なくなったのだと。無数のイカナゴが砂から頭を出している写真を見ながら「イカナゴは生き延びるため すごい戦略を持っているのだ」といままさらながらびっくり。 大阪湾のイカナゴ漁にとって、暖冬や寒さは漁期を変えるだけなんだと思っていましたが、敵なんだと初めて 知りました。

高山植物やカタクリなどの植物の生き残り戦略の話はよく聞かして知っていましたが、魚にも こんな生き残り戦略がある。初めて知るイカナゴの体得したすごい生活の知恵なんだと。

2 わが町 妙法寺「車」集落周辺の谷筋は 幕末期神戸開港を支えた神戸石炭の大生産地

びっくりついでにもう一つ 新聞記事から。

長年住んできましたが、住民ほとんどが、見たことも聞いたこともない石炭産出の新聞報道にびっくり。

「神戸石炭」といい、鎖国が解かれ、日本開国で、開港された神戸港に入港する蒸気船の燃料として、この神戸石炭が港を支えたという。

この妙法寺川が流れ下る車地区やすぐ北の白川峠は植物化石が今も出る場所として、神戸ではよく知られた場所。また モータリゼーション華やかな頃「車大道」のバス停・地名がよく紹介されましたが、まさかそのすぐ横から、石炭が出ていたなんて…。

早速 地図を片手に谷筋を歩きましたが、石炭など見つけれずでした。



(この神戸石炭は石炭になりきらぬ亜炭で、品質の良い他の産地の石炭に次第に置き換えられていったようだ。)

3. この四月 TV ニュース番組の芸能番組化がさらに急速に 公正なニュース報道はどこに・・・ また おかしかった朝日新聞の紙面構成がおおきくかわってきている

◎ 安倍政権のしめつけが、もうここまで と思えるような4月からのNHKのニュース番組構成。

公正な事実を冷静正確に伝えようとするニュース姿勢が全く影を潜め、アナウサーの役割はそっちのけで、判断力を持たぬ内輪の軽薄なコメンテーターの役割に。

また、「東京がなんでも・・・」の目線はもう限界である TVも若者だけでなく 年寄りにまでもが食傷気味。 やってる方も嫌でないのだろうか…と不思議になる。

「仲間内でなかったら よしたらへんよ」それが 今の日本の正常な感覚???? なのか

今の世を見ていると 大人から子供まで 全くまったく そんな世

かつて結われた 名前をこ変えた 「島国根性」「仲間内」の進行はすさまじい。

変革はそこにあるように思うのですが、今のところそっちへ向く兆しは全くなし。

◎ 一方 朝日新聞の新聞紙面構成がすごいこと変更されている。

「1週間 新聞入れますので、 もう一度 購読検討してください」とこの1週間 ポストに朝日新聞が入る。

紙面を開いてびっくり。 依然とお菊紙面構成が変化している。

あの広告の中に 記事を探さねばならぬ紙面や 報道が広告か意見かわからぬ記事が影を潜め、落ち着いた紙面に朝日の中央意識も変化した。 この紙面造りは 今読む地方紙の紙面に近い。

◎ 次のような話を聞いた。今の世 この話には 説得力あるなあ……と。

「票に支配された政治家に 中立や 金の節約などという方がおかしい。 本来 政治家はお金のバラマキが基本。 権力欲のない公正な政治家など 今の時代にいないだから 憲法などで政治家や権力・中央を縛らねばいけない」という

勝手な年寄りのたわごとですが、でも 今の世に ちょっとでも かかわらねば…………と。

2016.4.10. by Mutsu Nakanishi